

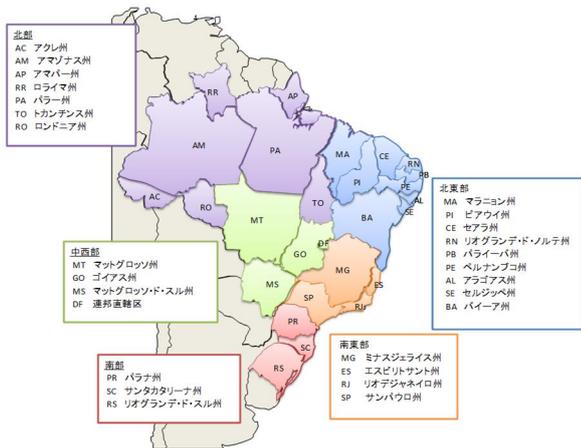
南米[ブラジル]



1 農・畜産業の概況

ブラジル政府の農業センサス(2017年)によると、農業経営体507万戸の所有面積は3億5129万ヘクタール(国土面積全体の41%)であり、このうち農耕地が6352万ヘクタール(農用地面積の18%)、牧草地が1億5950万ヘクタール(同45%)および森林が1億1523万ヘクタール(同33%)がとなった(図1、表1)。

図1 ブラジルの行政区分



資料:ブラジル地理統計院(IBGE)のデータに基づき機構作成

表1 農場数と農場面積の推移
(単位:千戸、千ha)

	1975	1980	1985	1996	2006	2017
農場数	4,993	5,160	5,802	4,860	5,176	5,073
農場面積	323,896	364,854	374,925	353,611	333,680	351,290

資料:IBGE

ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)によると、2023/24年度(10月~翌9月)には7989万ヘクタールが穀物生産に利用され、その生産量は3億109万トン(前年度比5.9%減)となった。主要生産品目は大豆およびトウモロコシであり、これらで全穀物生産量の約9割を占め、いずれも世界有数の生産量を誇る。

畜産分野では、23年の牛肉生産量は米国に次ぐ世界第2位、鶏肉生産量は米国に次ぐ第2位、豚肉生産量は中国、EU(英国を除く27カ国)、米国に次ぐ第4位となった。また、輸出量は牛肉、鶏肉が世界第1位、豚肉がEU、米国、カナダに次ぐ第4位となった。このようにブラジルは、牛肉、鶏肉、豚肉いずれの生産量、輸出量とも世界で上位を占めている。

23年の農産物(農畜産物、林産物および水産物)輸出額は、1665億米ドル(前年比4.8%増)となった。また、同年の農産物輸入額を差し引いた農産物の貿易黒字は1499億米ドルであり、農業部門が同国の貿易収支に重要な役割を果たしている。

2 畜産の動向

(1) 肉牛・牛肉産業

ブラジルの肉牛生産は、広大な牧草地を利用した放牧が主体であり、主に耐暑性に優れたゼブー系ネローレ種が飼養されている。近年は、トウモロコシや大豆を中心に穀物などの作付面積が増加する一方、放牧地面積が減少傾向にあることなどから、仕上げ期に穀物を給与するフィードロットによる飼養形態も拡大してい

る。

家畜衛生について見ると、ブラジルでは長年、口蹄疫対策に取り組んできた結果、2007年に、南部のサンタカタリーナ州が、国際獣疫事務局(WOAH)から同国初のワクチン非接種清浄地域のステータス認定を取得し、21年5月にはワクチン非接種清浄地域としてその他4州の全域と2州の一部が追加認定(注1)された。さらに、WOAHが25年5月に開催した総会におい

て、同国をワクチン非接種清浄国として認定した（図2）。

また、BSEについては、25年6月時点でWOAHより「無視できるBSE リスク」の国として認定されている。なお、ブラジルでは12年、14年、19年、21年および23年に非定型BSEが確認された。

（注1）WOAHは21年5月、ブラジル南部パラナ州、リオグランデスル州、北部アクレ州、 Rondônia州全域および北部アマゾナス州と中西部マツグロソ州の一部を口蹄疫ワクチン非接種清浄地域として認定した。

図2 口蹄疫ステータス(2025年10月時点)



資料: WOAH

ア 牛の飼養動向

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2023年の牛飼養頭数は、2億3862万頭（前年比1.6%増）と過去最大であった（図3）。ただし、前年比の増加率では過去3年間で最も低い水準であり、これは牛群の縮小期に入る傾向を示しているとされる。

州別に見ると、前年と同様に中西部のマツグロソ州が最も多く、次いでパラ州（北部）、ゴイアス州

（中西部）、ミナスジェライス州（南東部）、マツグロソ州・ド・スル州（中西部）の順となった。従来は、サンパウロなど大消費地のある南東部や南部を中心に飼養されていたが、これらの地域では生産コストが高く、また、中小規模生産者を中心に穀物生産などへの転換が進んだ結果、地価が安く広大な土地のある中西部や北部などでの飼養が拡大した（図4）。

図3 牛飼養頭数の推移

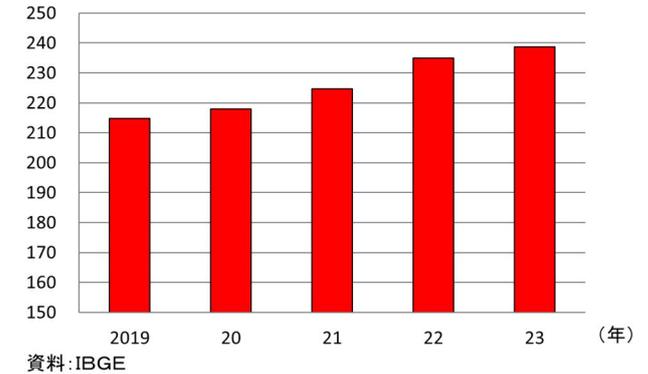
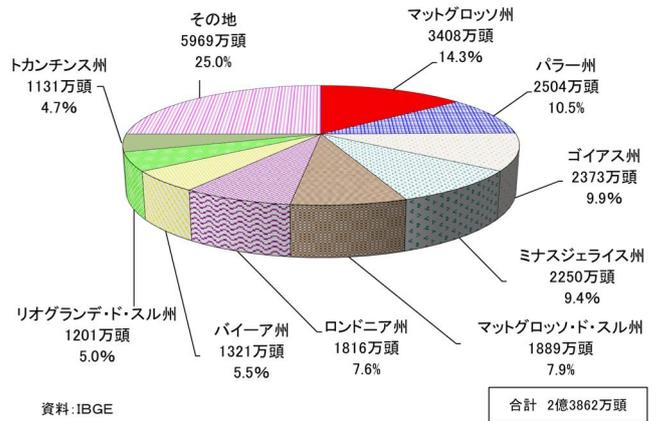


図4 牛の州別飼養頭数(2023年)



イ 牛肉の需給動向

(ア) 生産動向

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2023年のブラジルの牛と畜頭数は3410万頭（前年比13.9%増）、牛肉生産量は896万トン（同11.9%増）と、いずれも前年をかなり大きく上回った（図5）。これは、生体牛価格が下落傾向で推移する中、肉用牛生産者が繁殖雌牛を中心に畜向け出荷を増加させたことが要因であるとされる。

図5 牛肉生産量および牛と畜頭数の推移

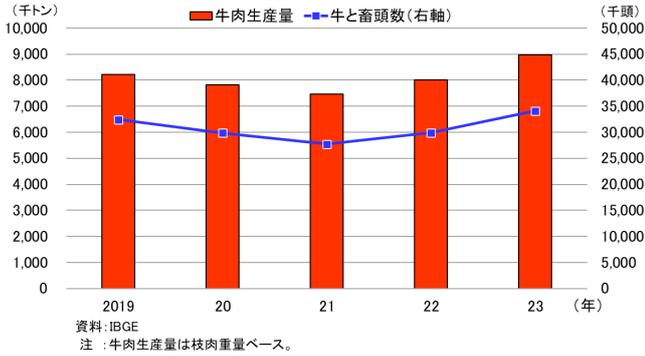


写真1 ゴイアス州の放牧風景

(イ) 輸出動向

ブラジル開発商工サービス省貿易局(SECEX)によると、2023年の牛肉輸出量(製品重量ベース)は200万5880トン(前年比0.7%増)と前年をわずかに上回った(表2)。牛肉輸出量は年初に大幅に落ち込んだが、その後、持ち直した。一方、同年の輸出単価は1キログラム当たり4.73米ドル(同20.2%安)と大幅に低下した。

輸出先別に見ると、輸出量全体の6割を占める中国向けは119万6016トン(同3.4%減)と前年をやや下回った。要因としては、23年2月にブラジル北部パラ州で非定型BSEに感染した牛が確認され、同国向け輸出が1カ月間(2月23日~3月22日)停止されたことが挙げられる。さらに、中国国内で牛肉生産量が増加したことに加え、中国元に対してブラジルレアルが上昇したことも影響したとみられる。一方、中国以外の主要輸出先であるチリ、米国、アラブ首長国連邦向けは増加した。

ブラジルでは、中国への過度な輸出依存を回避するため、輸出先の多様化に向けた取り組みが進められており、24年はインドネシア、タイ、メキシコ向けなどの増加が見込まれている。

表2 輸出先別冷蔵・冷凍牛肉輸出

区分	2023年			前年比(増減率)		
	輸出量(トン)	輸出額(千米ドル)	単価(米ドル/kg)	輸出量(%)	輸出額(%)	単価(%)
中国	1,196,016	5,734,750	4.79	▲3.4	▲27.9	▲25.3
チリ	99,266	482,857	4.86	26.3	23.4	▲2.3
米国	97,665	463,256	4.74	10.1	3.8	▲5.7
アラブ首長国連邦	75,085	333,220	4.44	34.1	28.1	▲4.4
エジプト	61,564	243,765	3.96	▲27.9	▲29.0	▲1.5
フィリピン	55,906	208,907	3.74	▲7.6	▲22.5	▲16.2
ロシア	50,411	187,317	3.72	33.1	15.6	▲13.1
サウジアラビア	47,059	210,420	4.47	33.0	14.2	▲14.1
その他	322,909	1,630,867	5.05	3.9	▲9.3	▲12.7
合計	2,005,880	9,495,359	4.73	0.7	▲19.6	▲20.2

資料: SECEX
注1: HSコード0201、0202の合計。
注2: 輸出量は製品重量ベース。
注3: 出典が異なるため、表3と数値は異なる。

(ウ) 消費動向

CONABによると、2023年の国内牛肉消費量は、651万5000トン(前年比13.9%増)と前年をかなり大きく上回った(表3)。

23年の牛肉の年間1人当たり消費量は、31.9キログラム(同13.3%増)と前年をかなり大きく上回った。長期的に見ると、1人当たり消費量は減少傾向で推移しており、19年に32キログラム台であった消費量はその後減少し、22年には28キログラム台になっていた。

表3 牛肉需給の推移

(単位: 千トン、kg/人/年)

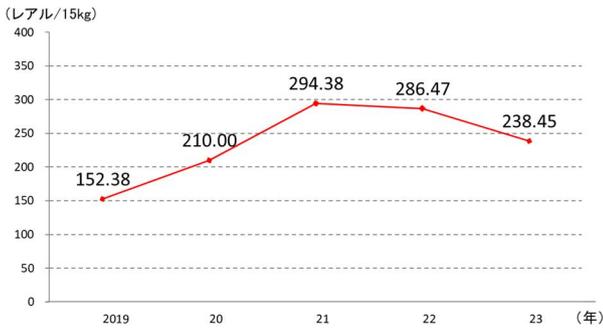
区分	2019	20	21	22	23
生産量	8,866	8,493	8,329	8,674	9,494
輸入量	40	51	57	65	50
消費量	6,424	5,853	5,907	5,720	6,515
輸出量	2,483	2,691	2,478	3,018	3,030
1人当たり消費量	32.1	29.1	29.3	28.2	31.9

資料: CONAB
注1: 枝肉重量ベース。
注2: 出典が異なるため、表2と数値は異なる。

ウ 牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体15キログラム(1アローバ)単位で示される。CONABによると、2023年の肥育牛平均価格(マットグロッソ・ド・スル州)は、1アローバ当たり238.45リアル(前年比16.8%安)と前年を大幅に下回った(図6)。23年の肥育牛価格は、と畜頭数増による牛肉の供給量の増加や、中国向け牛肉輸出の一時停止などから下落傾向で推移し、9月には20年5月以来の低水準となった。その後は、牛肉供給量の調整が進むとともに輸出が回復基調となったことから需給が好転し上昇に転じたものの、肥育牛価格は前年を下回って推移した。

図6 肥育牛の生産者販売価格の推移



資料: CONAB
注: マットグロッセ・ド・スル州

(2) 養鶏・鶏肉産業

ブラジルでは、穀物生産が盛んな南部がブラジル全体の鶏肉生産量の約6割を占め、このほか南東部や中西部などでも生産されている。養鶏・鶏肉生産方式については、生産から流通まで一貫したインテグレーションも進展している。同国内の鶏肉生産は、BRF社、世界最大級の食肉企業であるJBS社および農協系最大のAURORA社などの企業がけん引している。

また、飼料コストが他国に比べて低く価格優位性があり、世界最大の鶏肉輸出国となっている。

ア プロイラーの需給動向

(ア) 生産動向

CONABによると、2023年のプロイラー用ひなふ化羽数は68億7600万羽（前年比0.3%増）、鶏肉生産量は1485万1000トン（同0.5%増）となった（表4）。これは、堅調な輸出需要が後押ししていることに加え、23年当初からトウモロコシなど飼料価格が下落したことで、生産コストの低下による収益性の改善から生産者の増産意欲が強まったためとみられる。

表4 鶏肉需給の推移

（単位：百万羽、千トン、kg/人/年）

区分	2019	20	21	22	23
ひなふ化羽数	6,459	6,810	6,912	6,857	6,876
生産量	13,923	14,683	15,064	14,783	14,851
輸出量	4,175	4,125	4,468	4,653	5,009
1人当たり消費量	48.8	52.6	52.5	49.9	48.2

資料: CONAB

注: 輸出量は生鮮鶏肉のほか、鶏肉調製品などを含む。

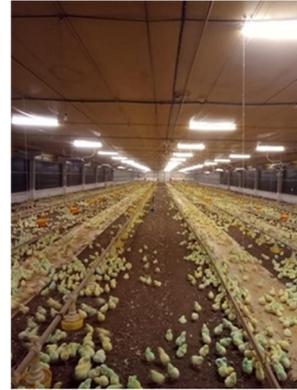


写真2 パラナ州の肉用鶏生産農家の鶏舎内

(イ) 輸出動向

SECEXによると、2023年の鶏肉輸出量は473万2540トン（前年比8.4%増）と前年をかなりの程度上回った（表5）。これは、米国など主要鶏肉生産国での高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）の発生やウクライナ情勢などの影響で鶏肉流通量が減少し、ブラジル産鶏肉への需要が高まったためとみられる。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは68万2282トン（同26.4%増）と前年の落ち込みから大幅に回復した。これは、中国が米国のほかアルゼンチン、トルコ、チリなどに対しHPAIに関連した輸入規制を強化したことによるものである。このほか、中国と同様に鶏肉の輸入規制を強化した南アフリカ共和国向け（同19.9%増）やインフレ対策として一時的な輸入関税の無税を措置したメキシコ向け（同22.8%増）も前年を大幅に上回った。また、日本向け（同4.2%増）は、ブラジルでのHPAIの発生による一時的な輸出停止により、8～10月の各月の輸出量が前年同月比で2割ほど減少したが、その後は回復し、前年をやや上回った。

一方、総輸出額（同1.1%増）については、輸出単

価が低下したため、前年をわずかに上回る水準にとどまった。

表5 輸出先別鶏肉輸出

区分	2023年			前年比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/kg)	輸出量 (%)	輸出額 (%)	単価 (%)
中国	682,282	1,608,611	2.36	26.4	19.7	▲ 5.3
アラブ首長国連邦	438,663	882,296	2.01	▲ 1.0	▲ 6.9	▲ 6.0
日本	427,956	947,067	2.21	4.2	0.3	▲ 3.7
サウジアラビア	376,576	843,088	2.24	10.7	▲ 0.1	▲ 9.7
南アフリカ共和国	339,859	196,295	0.58	19.9	5.0	▲ 12.5
フィリピン	217,469	198,374	0.91	▲ 11.2	▲ 30.3	▲ 21.5
韓国	201,735	414,649	2.06	8.8	1.8	▲ 6.4
メキシコ	171,567	367,316	2.14	22.8	9.9	▲ 10.5
その他	1,876,434	3,333,163	1.78	5.4	▲ 2.0	▲ 7.1
合計	4,732,540	8,790,858	1.86	8.4	1.1	▲ 6.7

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

注3：出典が異なるため、表4と数値は異なる。

(ウ) 消費動向

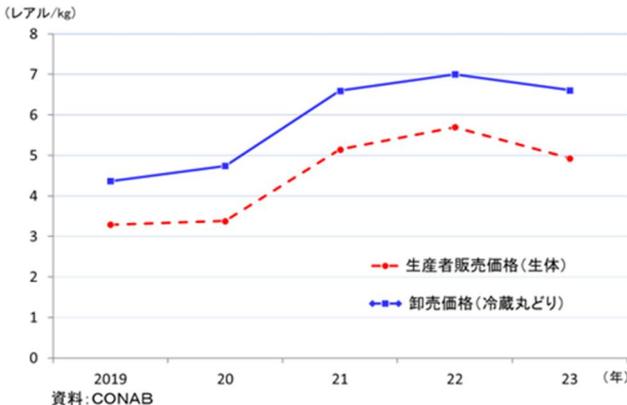
CONABによると、2023年の鶏肉の年間1人当たり消費量は、48.2キログラム（前年比3.4%減）と前年をやや下回った（表4）。21年以降、3年連続で前年を下回っているが、長期的に見ると上昇傾向で推移している。

イ ブロイラーの価格動向

(ア) 生産者販売価格

CONABによると、2023年のブロイラーの生産者販売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり4.93リアル（前年比13.5%安）と前年をかなり大きく下回った（図7）。23年の価格の推移を見ると、同年7月までは、鶏肉供給量の増加や牛肉、豚肉との価格差の縮小による鶏肉の価格競争力低下から需要が弱まったため、下降傾向で推移していたが、その後は鶏肉供給減などにより、価格は上昇傾向に転じた。

図7 ブロイラー価格の推移(サンパウロ州)



(イ) 卸売価格

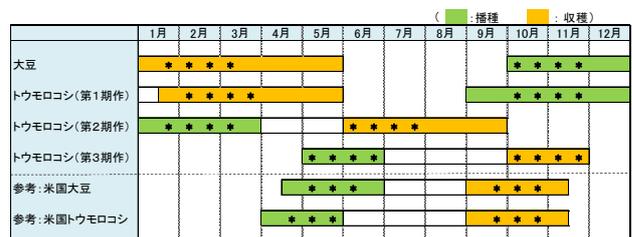
2023年の冷蔵丸どりの卸売価格（サンパウロ州）は、生産者販売価格の下降を反映して1キログラム当たり6.61リアル（前年比5.6%安）と前年をやや下回った。18年以降、卸売価格は上昇を続けていたが、23年に6年ぶりに前年を下回った。

(3) 飼料穀物

ブラジルの2023/24年度（3月～翌2月）のトウモロコシの生産量は米国、中国に次いで世界第3位、23/24年度（10月～翌9月）の輸出量は米国に次いで世界第2位であった。

ブラジルのトウモロコシの作付けは、夏作（第1期作）と冬作（第2期作、第3期作）の年3回行われる（図8）。23/24年度（10月～翌9月）の第1期作はリオグランデ・ド・スル州（南部）、第2期作はマットグロッソ州（中西部）、第3期作はバイア州（北東部）がそれぞれ最大の生産州であった。伝統的にトウモロコシ生産が盛んな南部3州（パラナ州、サンタカタリーナ州、リオグランデ・ド・スル州）での生産量は国内全体の19.2%を占めた。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部（マットグロッソ州、マットグロッソ・ド・スル州、ゴイアス州、連邦直轄区）の生産量は同59.3%となり、前年度より0.6ポイント増加した。

図8 ブラジルの大豆・トウモロコシの生育カレンダー



資料：CONAB、USDAIに基づいて機構作成

注：主要生産州の播種および収穫期に基づいて作成。*印は、各月を前半と後半に分けて、最も盛んな時期を示している。

ア 主要な政策

ブラジル連邦政府は、MAPAが管轄する農業部門に対し、2023/24会計年度（7月～翌6月）は過去最大規模となった前年度を大幅に度上回る4358億リアル（前年度比27.8%増）の予算を措置した（表

6)。

この予算は、穀物生産の拡大と環境保全を柱に、食糧の安定的確保や生産者の生産技術の向上・競争力の強化などを目的とした融資に向けられる。

表6 農業部門予算の推移

(単位:億レアル)

農業年度	2019/20	20/21	21/22	22/23	23/24
総予算額	2,227	2,363	2,512	3,409	4,358
営農・販売融資	1,693	1,794	1,778	2,463	3,137
投資融資	534	569	734	946	1,221

資料:MAPA

このうち、営農・販売融資に対して3137億レアル(同27.4%増)が予算措置された。営農融資は農畜産物の生産や加工に要する経費を対象としており、販売融資は連邦政府が定める農畜産物の最低価格を基礎とした農畜産物の担保として行われる。

一方、投資融資については、1221億レアル(同29.1%増)が予算措置された。この融資は、ほとんどの場合、MAPAが管理し、政府系のブラジル銀行や国立社会経済開発銀行(BNDES)が融資を行う。融資の内容としては、温室効果ガスの削減を図り持続的農業を拡大する低炭素排出型農業プログラム(RenovAgro、予算額69億レアル)、農業用トラクターおよび収穫機などの近代化プログラム(Moderfrota、予算額119億レアル)、倉庫建設・拡張プログラム(PCA、予算額67億レアル)といったものがある。

イ 飼料穀物の需給動向

CONABによると、2023/24年度(10月～翌9月)のトウモロコシ生産量は、1億1553万5000トン(前年度比12.4%減)と前年度をかなり大きく下回った(表7)。これは、収益性の悪化などにより生産者がトウモロコシの作付面積を減らしたことに加え、不安定な天候などで単収が低下したためである。

また、トウモロコシ輸出量は3850万1000トン(同29.5%減)と前年度から大幅に減少した。一方で、国内消費量は8399万8000トン(同5.7%増)と前年度をやや上回った。この結果、当該年度の期末在庫は188万2000トン(同73.9%減)と前年同期を大幅に下回った。

表7 トウモロコシ需給の推移

(単位:千トン)

項目	2019/20年度	20/21年度	21/22年度	22/23年度	23/24年度	増減率(%)
期首在庫	13,187	15,312	13,515	8,096	7,201	▲11.0
生産量	102,586	87,097	113,130	131,893	115,535	▲12.4
輸入量	1,453	3,091	2,615	1,313	1,645	25.2
総供給量	117,226	105,500	129,261	141,302	124,381	▲12.0
消費量	67,021	71,169	74,535	79,466	83,998	5.7
輸出量	34,893	20,816	46,630	54,634	38,501	▲29.5
総需要量	101,914	91,984	121,165	134,100	122,499	▲8.7
期末在庫	15,312	13,515	8,096	7,201	1,882	▲73.9

資料:CONAB

CONABによると、2023/24年度(10月～翌9月)の大豆の生産量は1億5128万3000トン(同4.9%減)と前年度をやや下回った(表8)。これは、作付面積が前年度より増加したものの、ほとんどの地域で悪天候に見舞われたことで、南部リオグランデ・ド・スル州を除く主産地で単収が減少したためである。

ブラジルにとって主要な輸出品目である大豆の輸出量は、生産量の減少から9881万5000トン(同3.0%減)と前年度をやや下回った。

表8 大豆需給の推移

(単位:千トン)

項目	2021/22年度	22/23年度	23/24年度	増減率(%)
期首在庫	9,362	9,549	11,034	15.6
生産量	130,829	159,154	151,283	▲4.9
輸入量	419	181	821	353.5
総供給量	140,610	168,884	163,138	▲3.4
種子/その他	2,862	3,369	3,427	1.8
輸出量	78,730	101,870	98,815	▲3.0
加工量	49,468	52,612	53,665	2.0
総需要量	131,061	157,850	155,907	▲1.2
期末在庫	9,549	11,034	7,231	▲34.5

資料:CONAB

ウ 飼料穀物の価格動向

2023年のトウモロコシ生産者価格(サンパウロ州)

は、年間を通して、いずれの月も前年を下回っており、年平均では60キログラム当たり60.4レアル(前年比27.9%安)と前年を大幅に下回った(表9)。

また、同年の大豆生産者価格については、1月時点では前年をわずかに上回っていたものの、それ以降はいずれの月も前年の価格を下回って推移し、年平均では同136.8レアル(同21.7%安)と前年を大幅に下回った(表10)。

表9 トウモロコシ生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:レアル/60kg)

区分	2019	20	21	22	23
生産者販売価格	35.0	52.8	87.7	83.7	60.4

資料:CONAB

表10 大豆生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:レアル/60kg)

区分	2019	20	21	22	23
生産者販売価格	72.1	107.6	158.3	174.6	136.8

資料:CONAB